

「戦争をかぶった言葉…」統合新学校名 に住民グループ異論 署名運動に発展 51年ぶり市に直接請求へ

BSS山陰放送



山陰放送

鳥取県倉吉市の2つの小学校が統合してできる新しい学校名をめぐり、住民運動が起きる事態となっています。議会で決まった「至誠（しせい）小学校」という名前の考え直しを求めるため、住民グループが署名活動をスタート。必要な数が集まったとして、来週にも市に署名を提出し、条例廃止を直接請求することがBSSの取材で分かり

ました。【[写真を見る](#)】「戦争をかぶった言葉…」統合新学校名に
[住民グループ異論 署名運動に発展 51年ぶり市に直接請求へ](#) 「こ
この度、校名を直そうということで回っています」 署名を求めて地域
を回るのは、住民グループ「新校名の再考を求める住民直接請求の
会」のメンバーです。鳥取県倉吉市の「成徳小学校」「灘手小学
校」の2校を統合して、2023年4月にできる「至誠小学校」の校名
の再考を求めています。グループが問題視しているのは、「至誠小
学校」という名前が決定した経緯の不透明さです。新しい学校名を
決めるにあたり、統合準備委員会が4月、市民に学校名の案を募集し
ました。20日間で341件、119種類の案が寄せられたということ
です。倉吉市教育委員会によりますと、市民から寄せられた341件
の応募のうち、実に150件が、地元の地名にちなんだ「打吹（うつぶ
き）」でした。対して、候補に決まった「至誠」の応募は、わずか1
件だったのです。数の多さで決めるという決まりはありません
でしたが、150対1がひっくり返った結果に、選考過程の不透明さを指摘
する声が上がりましたが、市議会は9月、「至誠小」で決定する条例
案を可決したのです。新校名の再考を求める住民直接請求の会 佐

治制子 共同代表 「もうちょっと明るい、子どもサイドに立った名前を付けてほしいなと思って行動しています」

必要な署名数すでに集まる 51年ぶり直接請求へ

グループが目標にしたのは、学校名を決めた条例の廃止を求める、市への直接請求です。必要な数は有権者の50分の1、764人（9月1日時点）を超える署名で、共同代表の7人を中心に、市内を回り続けてきました。署名をした市民は「いま民主主義の世界で、議会でも人数が多い方が議案が通るとのことになっているけど、今回はちょっとおかしいと思います」「時代に合った言葉を、子どもになじむ校名にしてほしいと思います」会の代表の1人、佐治制子さんは、校名決定のプロセスの不透明さはもちろん、「至誠」という言葉自体にもついても違和感があると話します。新校名の再考を求める住民直接請求の会 佐治制子 共同代表 「私は満州で生まれて、戦争を体験してきました。父親はロシアの兵隊に殺されました。びっくりしました、この「至誠」という言葉は、戦争をかぶった言葉です。この名前を付けると、これから日本の子どもたちが戦争に取られちゃうって、そういう思いが大げさではなく心配です」今回の署名活動については、電話で「署名したい」という内容のほか、「なぜ活動してい

るのか」などの問い合わせも相次いでいると言います。 会によると
11月15日時点で、直接請求に必要な764人分を超える、3200人分
の署名がすでに集まったということで、会は署名活動の期間の1か月
を待たずに、署名を提出する方針を固めました。 有効署名数は、市
に署名簿を提出した後、市選挙管理委員会の審査を経て確定します。
新校名の再考を求める住民直接請求の会 深田哲士 共同代表 「直
接請求が通って市議会に諮られることになったら、こちらの意見を陳
述するような機会があるようなので、そこで、決定がおかしいんじや
ないかということをおっしゃってほしいです」 倉吉市によりますと、
市民によるこうした直接請求は、1971年以来51年ぶりということ
です。 開校が迫る中、新しい小学校名問題はどのように決着する
のでしょうか。

